

今年度の主な特徴

人の役に立ちたいと願う子ども

図1は、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問の回答について、平成28年、30年、令和3年の3年分の経年変化です。6年前と比較して「当てはまる」と回答した割合がおよそ6ポイント高くなっています。

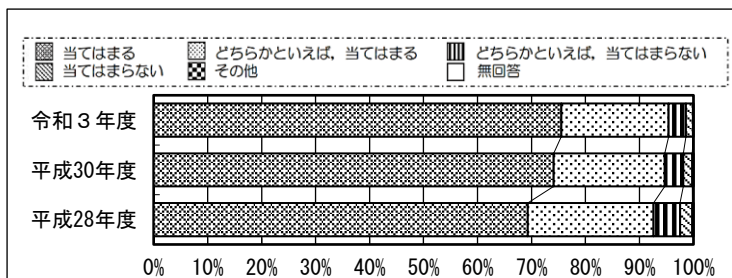


図1 人の役に立つ人間になりたいと思うか

これは、道徳的価値の理解を深める学習を推進してきたこととともに、松本版コミュニティスクールの支援を受けつつ、身近な地域に子どもたち自らが関わり感謝されたり、自分たちの活動にやりがいを感じたりした経験の積み重ねの成果ではないかと考えます。人の役に立つ事のうれしさを経験的に感じてきている子が増えているのではないかと考えられます。

ICTを活用した学習状況

松本市では、昨年度末一人一台端末が整備されICT支援員のサポートを受け、今年度、徐々に学習場面での活用が始まっています。ICT機器を「ほぼ毎日使用した」児童の割合が3年前と比較して約2ポイント、「月1回以上」と回答した児童の割合が約5ポイントそれぞれ増加しています。

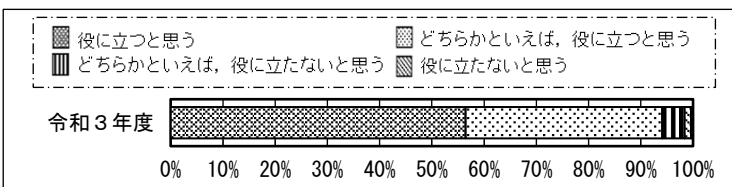


図2 学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つか

図2は「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対する今年度の回答です。9割以上の児童が「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と回答しており、ICT機器を活用しての学習に可能性を感じたり、学習に積極的に活用しようと考えたりしている児童が多いことがわかります。現在では、多くの場面でICT機器を使った学習が展開されるようになりましたが、この児童の意識を今後も大切に、児童が課題を解決するために役立つ道具として授業及び学校生活の中で幅広く活用できるようにしていくことが大切であると考えます。

同時に、ICT機器活用にあたっては、情報モラルの面からも適切な指導を繰り返していく必要があると考えます。

学力状況と生活・学習実態との相関関係

聞く力と正答率

図3は、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問についての回答と各教科の平均正答率との相関図です。自分とは違う友達の意見を知ることが楽しいと考えている児童ほど正答率が高くなっています。また図4は、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」という質問についての回答と各教科の平均正答率です。話し合いで友達の話や意見を最後まで聞く児童ほど正答率が高くなっています。

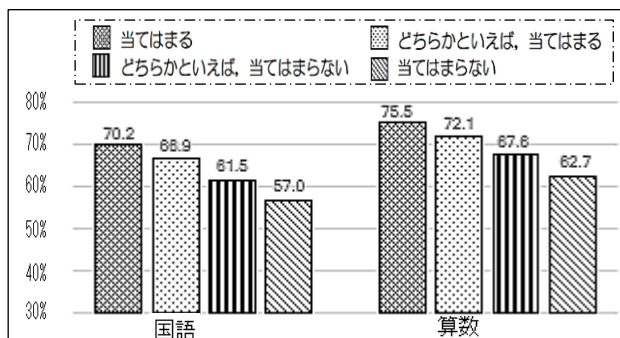


図3 「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」と平均正答率

児童は友達の話や意見を聞きながら自分の考えと比べ、考えを広めたり深めたりしています。

また友達と話し合うことで自分の考えが広まったり深まったりしていく学びを楽しいと感じ、意欲的に取り組んでいることが分かります。

このことから、今後も友達と話し合い聞き合いながら自分の見方や考え方を育む学びを大切にしていきたいと考えます。

探究的な学習と正答率

図5は「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問についての回答と、各教科の平均正答率との相関図です。出会った課題に対して自ら解決しようと考え取り組む児童ほど正答率が高くなっている傾向があります。また、図6は「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問についての回答と各教科の平均正答率との相関図です。自分の考えを相手に伝えようと、資料や言葉を選んだり、文章の構成を考えたりしてから発表していた児童ほど正答率が高くなっています。

このことは、児童が主体的に対象にかかわり必要な情報を収集すること、その情報をもとに追究し自分らしく表現していくことよさを示しています。「どうして？」という疑問から始まり、自分なりの見通しをもって追究し、自分で何かを発見した時、人はそれを伝えたくくなります。それをどう伝えるか考え工夫することで、思考力・判断力・表現力が育ち、生きて働く知識や技能が身に付いていくのではないかと考えます。

総括

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、5年前より約12ポイント増加しています。近年、新型コロナウイルス感染症をはじめ、命を脅かす災害がたび重なって起きる中、児童は地域や社会の課題に目を向け、人の役に立ちたいと願うことが多くなってきているのではないのでしょうか。このような社会で起こっている課題を解決していくためには、自分の考えをもち、多様な考えに耳を傾け、コミュニケーションをとりながら自分らしく判断していく力が求められます。こういった観点からも、学校でも地域でもまた家庭でも「人とのかかわり」から学ぶことを今後も大切に考えていく必要があると考えられます。

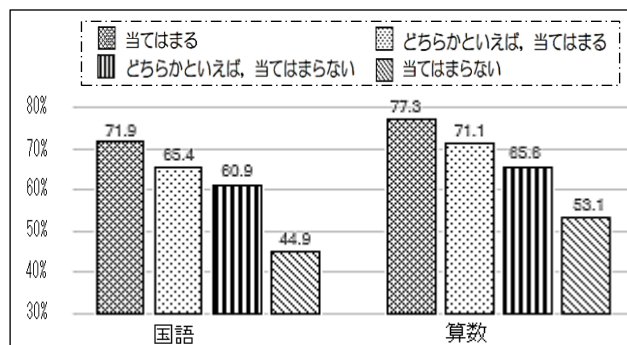


図4 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」と平均正答率

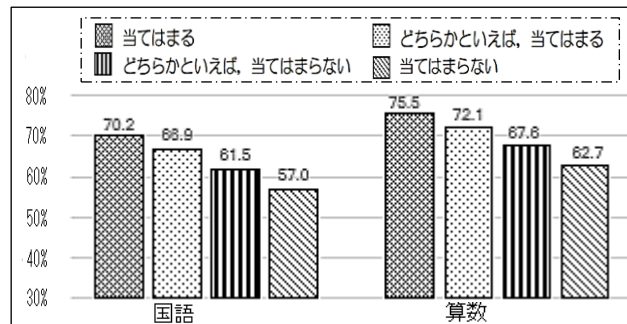


図5 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」と平均正答率

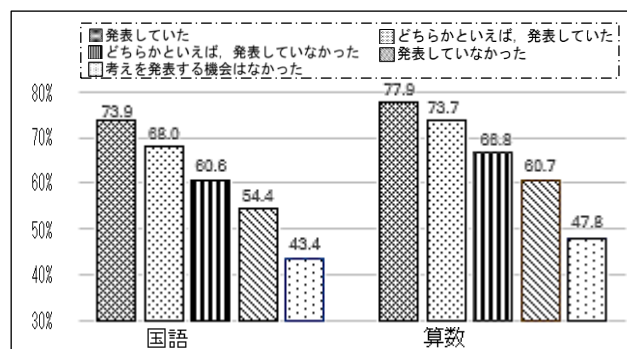


図6 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」と平均正答率